風はPLCから

早くも12月になり,今年も残りわずかになりました。第2号では,実習について院生の感想をもとに紹介します。高度化実践実習Ⅰでは、附属小・中学校に、重点領域実践実習Ⅰでは, 出水市の山間部に行くチーム・奄美大島の龍郷町に行くチームに分かれてそれぞれの決めたテーマを探究してきました。今回は取り上げられなかった重点領域実践実習Ⅱ(特別支援)や,開発実践実習など年間を通して様々な実習を行いました。院生の声を参考に,大学院での生活をイメージしていただけると幸いです。

高度化実践実習Ⅰ・高度化実践実習Ⅰ成果報告会

院生は,校種や実習校,2年間で探究するテーマが1人1人異なります。高度化実践実習Ⅰでは,それぞれのテーマに基づいた視点で,現職学生は実習校での授業を参観し,また学部新卒生は,授業を参観したり実際に授業を行ったりしました。

高度化実践実習Ⅰ成果報告会では, 高度化実践実習Ⅰの時間で,各自がどのようなことを学び,今後の研究にどう繋げていこうと考えているかを,スライド16枚にまとめ,発表しました。それぞれの学びを共有することで,院生同士がこの報告会を通して,さらに互いを知ったり,経験によっても見方が異なるので,自分の学びに他の院生の学びを繋げたりする場にもなります。以下に,発表を終えた院生の声を掲載します。

～学部新卒生の声～

発表会を通して, 自分の課題や成果についてもう一度考える事ができました。また, 自分の授業像について捉え直すことができたり, 学部の時の自分と今の自分とを比べて変容に気付くことができたりしました。 また, 他の人たちの発表を聞くことで教科や校種を超えて, 学ぶことができました。高度化実践実習中は, 自分のやるべき事でいっぱいいっぱいでしたが, 実習を終えて全員の成果に触れることで, 他の人の頑張りに気付くことができ, 後期からもみんなで頑張ろうという気持ちになりました。成果発表会でまとめた成果や課題を基に, 探究課題を焦点化させていきながら今後の学びに繋げられるように頑張りたいと思います。

成果発表会を通して,これまでの私自身を省察したり,他の院生の発表を聞いて学びになったりすることが沢山ありました。 教科指導に関して,教材化されたゲームによって子供たちに何を学ばせ,何ができるようになって欲しいのかなど,子供の「目指す姿」を考えることの大切さも学びました。ただ教材化されたゲームを行うだけでは,子供に表出して欲しい動きが行えず,子供の意欲を低下させてしまうこともあります。教材化されたゲームを行う際は,子供の実態に応じたゲームを行うべきだと感じました。 他の院生の発表は,他教科の発表もあり,違った考えをもつきっかけとなりました。今後は,このような学びや考え方を元に,大学院生活を過ごしていきたいと思います。

～現職学生の声～

前期の高度化実践実習での学びを「高度化実践実習報告」として発表しました。現職教員として, これまでの教職経験と, 実習校での学びを整理して発表する過程を通して, 自分の実践を振り返るとともに, 新たな学びを得ることができました。また, 他校種で実習をした学生の発表を聞くことで, 授業実践・組織的業務のどちらも, 新たな視点に気付くことができました。他校種の様子を学ぶことができるのは,教職大学院ならではだと思います。高度化実践実習の報告をまとめることで, 探究課題や今後大学院でさらに学びを深めていきたいことを見付けることができました。

入学当時に探究したいと考えていた自身の課題と,今回のプレゼンで発表した内容は異なっていました。高度化Ⅰプレゼンの終了時点で約6か月経ちましたが, その間に大学院での講義や実習, 大学院生との交流, ストマスとの授業づくりを通して, 自分の考えや学びたいことが変容していったことを実感しました。学べば学ぶほど分からないこと, 知りたいこと, 新たな課題も増えて, 切りがないようにも感じますが, 自身の探究に集中できる残りの時間も大切にしていきたいです。

重点領域実践実習Ⅰ・重点領域実践実習Ⅱ

鹿児島県には,都市部だけでなく離島や山間部にも多くの学校があり,少人数指導や複式指導を行う学校も多数存在します。そこで,重点領域実践実習Ⅰでは,そのような地域で,1週間特色ある教育に触れ,授業実践を行いました。宿泊先では,院生同士で授業について意見交流したり,親交を深めたりしました。

重点領域実践実習Ⅱでは,特別支援学校の取り組みや、特別支援の実態について学ぶために附属特別支援学校に行きました。院生は、小・中・高等部に分かれて担当クラスに入り、1週間の実習を行いました。その中で、CT(チーフ・ティーチャー)とST(サブ・ティーチャー)という役割を担って授業の実践も行いました。個別最適な学びや個別の支援計画,個別のゴール設定の仕方について深く学べる機会となりました。

今回は,重点領域実践実習Ⅰを終えた院生に感想を聞いてみました。

～学部新卒生の声～

龍北中での実習を通して,「個別最適な学び」について学びを深めました。社会科の授業では,特定の単元において自由進度学習を導入しており,生徒自身が授業ごとにめあてを設定し,調べ学習を実施していくという授業スタイルをとっていました。生徒自身が課題を設定し探究していく姿を見て,「これぞ主体的な学習だ」という印象を受けました。一方で協働的な学びという観点では,少人数指導のため,他人の考えを聞くことが難しいという課題もありました。しかしそういった状況でも資料を多く用いたり,発問をしたりして多面的な学びの実現を目指していました。今後の授業実践において,主体的な学びを促す一つの手段として参考にしていきたいです。

大川内中の先生方の授業実践の見学を通して,今まで見てきた手法と異なる授業展開や授業のまとめ方,復習の仕方を学び,実際にその方法を試しながら授業づくりを行いました。今まで30人クラスでしか生活したり,授業をしたりしてこなかったため戸惑いもありましたが,生徒や先生方の協力をいただきなんとか授業を終えることができました。中には上手くいかなかった実践もありましたが,その手応えや上手くいかなかった理由を振り返る時間も学びになりました。今後は,今回の実習で学んだ導入やまとめの方法を振り返り,他の講義や実習で理論と照らし合わせ,自身の探究している内容を深化していきたいと思います。

～現職学生の声～

私は重点領域実践実習Ⅰにおいて、間接指導に入る直前の教師の働きかけについて学びを深めることが出来ました。実習中の授業参観や授業実践を通して,間接指導の間も児童生徒が見通しをもって学習を進められるようにするために,間接指導に移る前に「どのような順番で学習を進めるのか」「何分間作業をするのか」「もし作業が終わっても先生が戻ってこなかったら何をするのか」など,学習の流れを明確に伝えることが重要であり,このような働きかけによって,子どもが自分たちで学習を進めることができるということを学びました。このような子どもに学習の見通しを持たせるための工夫は,複式指導ではない通常の学習指導においても必要な工夫であるため,今後の実践の中でも意識して取り組んでいきたいと思います。

実習を通して,初めて本格的に複式授業を参観し,実際に授業を行うという貴重な体験ができました。切通小学校の子供たちの「自分たちでめあてを立て,建設的に話し合いながら学習課題を解決していく姿」にとても感激しました。自分が授業を行う際は,子供たちへの問いのもたせ方,ずらしとわたりのタイミングなどが難しく,高い意識をもって授業経験を積むことが大切だと感じました。実習前には複式授業について学ぶ機会があり,実習校でも授業を見たりアドバイスをいただいたりすることができたので,実践的で深い学びができたことに感謝しています。今後は,子供たちが学び方を身に付けるための手立てについて,研究と原籍校での実践に取り組みたいです。

高度化実践実習Ⅰ
成果報告会
附属中学校で
授業を行う
学部新卒生
半年間の実習での学びを
スライドを使い発表する様子
少人数クラスで
授業を行う
学部新卒生
重点領域実践
実習Ⅰ
附属特別支援学校
小学部での授業
3・4年生複式学級での
算数の授業
地域の特色や
取り組みについて
聞いている様子
重点領域実践実習Ⅱ
授業後に,児童の姿で
語る授業ミーティング
院生が,CTとSTに
分かれ,TTの形態で
行った授業
実習1日目の
オリエンテーション